

白根青年会議所
その「まちづくり」

白根が好き。だから、
考えたい……。

まちづくりフォーラム

私たちの住む白根市をどんなまちにしたいのか…。
昨年11月に、白根市のまちづくりを考える市民レベルのパネルディスカッション「まちづくりフォーラム」(主催・白根青年会議所)が行われました。広報しろねでは先月に引き続き、5人のパネラーのまちづくりに対する積極的な提言を掲載します。この企画が、市民と行政が一体となって「まちづくり」について考える一つのきっかけとなり、「豊かな住みよい白根市」をつくる大きな原動力となることを望みます。今、日本中が注目する「ふるさと

創生」事業も「まちづくり」の一つの手段です。
本市では、それを活用しながら、積極的な「まちづくりを進めるために、市民の皆さんのアイデアを募集しています。(詳しくは本紙20ページをご覧ください) この企画を読んだ感想と併せて、ぜひ係までお寄せください。

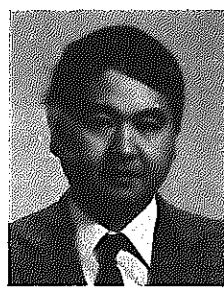
「まちづくり」って何のこと?

- ① 「まちづくり」だから、農産物は関係ない、と思ったら大きな間違い。
 - ② 商店街をきれいにしたり、道路を作ったりすることと思ったら、それだけではありません。
 - ③ 市役所が勝手に首頭をとって、ショーや催しをすること、と思ったらお門違い。
 - ④ まちの名物を1つ、大いに売り出すこと、と思ったらそれだけではありません。
- 「まちづくり」は、産業や、教育、施設、福祉、歴史、地理など、そこに住む人々の生活を取り巻く環境を総合的にとらえ、地域を活性化することです。行政と市民が一体となって、活力ある文化を創造することを「まちづくり」と呼びましょう。

私もひと言

白根を情報の発信基地に

情報化社会が進み、白根から出した情報でも、翌日には全国に伝えることができます。白根を「情報の発信基地」にする、という考え方をしたいかないと、東京のものまねに終わってしまいます。どんな小さいことでも、特殊なことでも、地域や個々の店のオリジナリテ



小柴 健一さん (魚町・自営業 三十七歳)

イーを打ち出していかないと、生き残ることは不可能です。商店街の発展については、第一に、個々の商店が、それぞれ利益を上げること、これがいちばんたいせつです。商店には必ず、もうけていただきたい。商店街だけきれいになっても、個々の店がつぶれたら、何もありません。ありがたいことに、情報化ということは、東京の銀座からでも、白根からでも、情報を発することに変わりはないんです。さあ、皆さんがんばりましょう。

中野孝治さん



白根独自のブランドをよそにないものを、みんなで考えようじゃないか。そうすれば、まだまだ白根を伸ばせる。

私は、まちを良くするためにはまず、農家が良くなるようにだめだ、さらに商店街の質が良くなるなければならぬと思います。白根の商店街の客はほとんど外へ流れ、活気がなくなっている。例えば、実際に私のことなんですが、買い物といえば新潟ジャスコ、高級品といえば三越、かまやくわといえ月満、三条へ出かけていく。では、白根に何が残るか。私の周りでは、地元のお店に当座の用で買いに行く、という状態です。これをみんな白根で賄えるよう

にできないか。言葉を変えれば、白根独自のブランド、良品販売ができないか。

他の産地に負けない、近隣の市町村にはない魅力あるまちをどうやったら作っていきけるのか。人が来れば必ず物が動く。物を作らなければならぬ。そしてまちを良くしなければいけない。先ほどこういう話が出ました。

「白根のまちは古い」「古いというより汚い」「デートをする場所がない。お茶を飲むところも少ない。ましてや、二人で手を繋いでなんて歩けない。歩けば人が見る」ということなんです。今もなお、女房と二人でまちを歩くときになると、新潟では二人で手を繋いで歩けるけれども、白根のまちではとても手をつないでは歩けない。これを、手をつないでも歩けるまちにしたら、もつと人が寄ってくれるんじゃないか。白根は新潟と三条の間にあります。今は人の流れが向こうを向いているが、逆に考えれば、新潟や三条から人を集めやすいところに白根があるんです。住んでいる人たちがもつと前向きな姿勢で、地域的な発想を持って、よそにないものをみんなで作えようじゃないか。そうすれば、これからまだまだ白根を伸ばせる力があると思います。

5人のパネラーを紹介します。

(2月1日号で山田泰介さんのお名前を誤って掲載いたしました。訂正しておわびいたします。)

山田泰介さん
(中町・35歳)
家業に精を出す2児の父。家業(お茶類販売)は本人で6代目。元旦マラソン、PTAスキー事業、少年野球など地域活動には欠かせない人。

庭山幸明さん
(五六の町・39歳)
13年間勤めた製薬会社を脱サラして、家業(酒類販売)を継ぐ。趣味はいろいろで、自称多趣味で無趣味。白根神社の手伝い(?)もする3児の父。

中野孝治さん
(下大郷・34歳)
青年農業会議副会長。カーネーションの栽培などに取り組む。3児の父。存在感のある父親かどうかは、子どもに聞いてみないど?



竹内 正さん
(みの口・39歳)
白根青年会議所直前理事長。青年会議所活動に情熱を燃やす熱血漢。白根市活性化の受け皿になれるような団体にしたいというのが夢。歯科医。



河内直史さん
(黒崎町・60歳)
前白根高校校長。市社会教育委員などで、教育問題や青少年問題に取り組む。白根スキークラブは創設以来の会員。建設会社勤務。